

# 第4回荒川区地域公共交通会議

## 議 事 要 旨

日時：平成24年11月13日（火） 10:00～12:00

場所：荒川区役所3階 特別会議室

### 議事次第：

- 1 開会
- 2 町屋ルート<sup>①</sup>の運行状況について
- 3 さくら02系統の拡大（一部逆周り便の拡大）について
- 4 その他

### 配布資料：

- ・次第
- ・資料1 荒川区コミュニティバス運行体系（現状と今後の予定）
- ・資料2 町屋ルート<sup>①</sup>の運行状況について（開業1週間の利用客推移、停留所等写真）
- ・資料3 さくら02系統の拡大について
- ・配布資料1 第3回会議録
- ・配布資料2 荒川区地域公共交通会議設置要綱・名簿
- ・配布資料3 地域公共交通会議に関する国土交通省としての考え方について（コミュニティバスの導入に関するガイドライン）（国交省）

## 【議事要旨】

### 1 開会

- ・ 防災都市づくり部長、会長から挨拶
- ・ 資料確認

### 2 町屋ルート of 運行状況について

#### <事務局>

(資料1、資料2について説明)

1 1月1日にコミュニティバス町屋さくらが開業してから10日経ち、1日あたりの平均利用者数は約330人となっている。目標は、1日平均で900人以上としており、今後のPR活動や通勤・通学利用者の増加が必要である。

また、利用者数に応じて増便や時刻表の改定、停留所の増設など、状況に応じた柔軟な対応が必要であるため、運行事業者である京成バス(株)と連携した取組みが不可欠である。

既存ルートの状況については、さくら(南千01系統)については1日あたり約1400人、汐入さくら(南千03系統)については1日あたり約1100人の利用者数であり、順調に利用客が伸びている。また、さくら一部逆周り便(南千02系統)については、夕方～終発で1日あたり約100人程度の利用者数である。町屋駅～グリーンハイム荒川までの区間で20分間隔運行のため、特定の集合住宅からの利用者がほとんどである。このため、ルート沿線の潜在需要の掘り起こしが必要である。

#### <会長>

質問、意見等ありましたらどうぞ。

#### <委員>(高梨)

町屋さくらの利用者はどのエリアの居住者であるか、調査しているか。

#### <事務局>

居住エリアはわからないが、どの停留所から乗車するかは調査できるので、次回の交通会議で提示する。

#### <委員>(後藤)

新三河島駅から熊野前駅まで簡単に行けるようになったので、感謝している。今後、ぜひ西尾久方面でも運行して欲しい。

#### <会長>(大森)

1、2ヶ月経ったら、どのバス停から乗っている人が多いかの調査はするのか。

#### <事務局>

調査します。

<会長>（大森）

障がい者の利用者の割引はあるか。また、障がいの種別（車イスや視覚、聴覚など）はわかるか。

<事務局>

障がい者の無料制度があり、当区障がい者福祉課で無料パスを発行している。無料パスの提示か、手帳の提示で無料で乗車できる。

<事業者>（京成）

バスの乗車時に手帳等を提示してもらうが、障がいの種別については、手帳の中を見なくてはいけないので、確認はしていない。

<委員>（藤崎）

障がい者無料制度について、愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳なども適用されるか。

<事務局>

すべて適用の対象になっている。

<会長>（大森）

運行を開始してまだ10日しか経っていないので、今後利用者数やその傾向などを調査していただきたい。

<事務局>

了解した。

## 2 さくら02系統の拡大について

<事務局>

（資料3について説明）

さくら01系統の開業当初から課題となっていた逆周りルートについて、逆回りの要望が多数寄せられており、利用者数の動向を見ながら導入を検討してきた。現在では町屋駅～グリーンハイム荒川までの一部区間において夕方～最終便で運行しており、さらに利用者から要望が寄せられている。

こうした状況を踏まえ、さくら02系統（一部逆周り便）の運行拡大について、本格的な検討を進めることとなった。02系統の拡大が図られれば、往復利用が可能となり、モビリティ・アクセシビリティの確保へ前進、さらに多くの利用者へのサービス向上につながる。

区としては、今後検討を進め、平成25年度内の運行開始を目指す。

<会長>（大森）

では皆様からのご意見をいただきたいと思います。今回これ、初めてでてきた議題ものですか？

<事務局>

初回の交通会議で課題としてでてきたもの。本来なら、こちらを先にすすめるべきという議論もあったが、色々な地区へ公平性担保という意味もあり、入れられるエリアに入れていこうという議論をさせていただいた。

<委員> (海田)

いまタクシー業界の中で高齢者社会が問題になってきていて障がい者、車椅子の方が安心して乗れる環境にしなければならない。バスはシルバーパスがあり、それがその地域でどれくらいの頻度で使われているか。シルバーパスは事業者負担になるのかと。そうしたときに、最初から巡行と逆行をおこなえないと、運行管理は車両をそろえることで多額の費用がかかる。このバスの運営で赤字がかかると区の補填はないということで、シルバーパスのご利用の脚が多いと、圧迫しないかと考えて、バス事業者のほうにご質問した。

<委員> (木下)

わたしの手元にあるのは、町屋さくらのシルバーパスの利用者は5割強使用されている。既存のさくらと汐入は今手元に資料がないが、お客の総数はさくら汐入のほうが多いが、割合事態は町屋より少ない。2割3割くらいだと思う。

<委員> (海田)

そうなったとき、2、3割のときでも、これから運営をしていくうえでそこまで支障がないというかたちなのですか？

<委員> (木下)

現在、さくら、汐入はシルバーパスの補助金を、東京バス協会を經由して、東京都から受け取っていますが、それについては運送収入に入れている。ただし、それを加味しても営業収支としては赤字、現段階で赤字となっています。

<会長> (大森)

その赤字の分は荒川区からですか

<委員> (木下)

コミュニティバス運行経費に関わる赤字分について、受け取らないという枠組みで17年度当初からやっており、私どもの自助努力で、せっせと赤字を少なくしていつている。決して垂れ流しではなく、毎年赤字額は少なくなっている。

<会長> (大森)

この一番乗っている01さくらも赤字ですか。

<委員> (木下)

そうです。ただ年々赤字を解消しており、現在ではとんとんのところまできている。

<事務局>

区のほうでは車両購入補助を車両一台当たり3分の1だしており、バス停留所の周辺道路環境整備は区のほうで道路工事を行っています。こうした状況の中でかなり自助努力をしていって京成バスの頑張りでなんとか維持ができています。

シルバーパスについては、どこの自治体でも議論になっているようですが、そういうものもありますので、今後も引き続き、どういう状況がもっともベターな状況になるかは各所で検討が必要。

<委員> (藤崎)

区のほうの補助を頂いた分の減価償却は当然はいいというえでの収支ということですか。

<委員> (木下)

車両購入費の一部については圧縮記帳して、経営費に反映している

<委員> (藤崎)

であるにもかかわらず、現在まだ収支が改善されていないということ

<委員> (木下)

そのとおりである。

<委員> (後藤)

今後の予定で、逆方向が先なのか、尾久や日暮里地域については、逆方向が完成してからになりますか。

<事務局>

尾久や日暮里も現在他の交通や道路の状況をかんがみて、検討していかなければならないが、具体的にどう進めていくかは未定だが、候補地としてはあるという認識を持っていただければ。

<会長> (大森)

まずは逆方向が先ということですね。

<委員> (後藤)

尾久地域から日暮里地域への結構交通網が無いものですから

<事務局>

ご要望は頂いております。私どもの調査でもそうしたご意見も多数あるが、絶対数として要望が多かったのは、この町屋エリアのほかに逆周り。まずはそうしたところから改善していくのでちょっとお待ちいただき、議論していきたいです。

<会長> (大森)

コミュニティ以外の路線がどこ走っているか、前も出して頂いた気もしますが、路線バスがどこを走っているか。路線バスの情報も常に載せて下さい。

<委員> (若田)

2つ質問があります。

荒川区の補助について、今度のさくら02の拡張においても、同じような区の支援

メニューでやっていくか。もうひとつ拡大ということで、新たに事業者の選定から入るのが、拡大ということでそのままなのか

<事務局>

支援体制は同様に考えている。予算確定前なので、予定ですが、同様だと考えている。02については、拡大なので、同一の事業者で考えている。

<会長> (大森)

背景というか、現在町屋からグリーンハイムまでは逆周りという要望があるとのことだが、さらにどこからどこに行く要望が強いのか

<事務局>

南千住から区役所方面、町屋方面の要望が来ている。

そうしますと、完成系としては、逆周りを検討していきたいと思っております。

<会長> (大森)

南千住から町屋は今の方法で・・・

南千住から区役所までは普通の路線バスはないのですか。

<事務局>

区役所までは南千住東口から都バスさんの南千47というバスが日暮里まで出ています。

<委員> (若田)

本数は非常に少なくて申し訳ないのですが、一日当たり8本でございます。

<会長> (大森)

あることはあるんですね。あと、現在の方向と同じくらい逆方向を走らせる予定ですか。

<事務局>

さくら01は12~16分くらいの間隔で運行している。一部逆周りは20分間隔なので、まずは20分間隔を拡大する方向になる

<会長> (大森)

逆周りのが本数が少ないかたち？

<事務局>

そうです。様子を見ながら行く必要があると考えている。

<会長> (大森)

本当にどれほど需要があるのか少し心配なところがあります。スケジュールによると、1年かけて検討するとありますが、次回以降どの様な段階を踏んでこれは検討していくのか。まだもう少し具体的な運行計画は来年度出てくるのですか。

<事務局>

当然ながら事業者と協議しつつ、採算等も見つつ、バス停についても検討を重ねつつやっていきたい。

私どもの予算が決定するまではまだまだ検討ということの中で進んでいくのかなあと

思っています。

<委員>（高梨）

今日は頭だしということで理解するが、実際の事業予測が立たないと、また京成バスさんに運行していただけるのかわからないと、現実的にバス停だけ早めに決めてもしょうがない。次回は事業予測に基づく運行表とか具体的なものがでてくるともう少し議論が深まると思います。

<事務局>

ある程度の需要予測は行っていて、21年度調査の中で検討しております。本日はお持ちしておりませんが、まだ詳しい話は京成さんとつめていないので、次回はそれらの内容について議論させていただこうと思っています。また、ある程度バス停の位置などをあらかじめ決めておかないと需要の推計ができません。バス停の円を書いて半径200mぐらいの圏内における需要を推定するかたちになります。これが重要となるため、先行して今回は資料をご提示しております。予算確保ということになりましたら、警察立会いなどしていく。事務局としては、まずこれをやろうとしている部分を現段階で何かあればご意見いただければと思っております。

<会長>（大森）

今回は頭だして次回以降はどれだけ人が乗りそうだななど需要予測結果の資料など出していただいて、さらに議論を深めたいと思います。

<委員>（須藤）

バスも細かく出来てきて、荒川区は自転車の町で、これと連動して駅前の放置自転車などまだ足立・文京に負けているので、こういうものもどんどんバス網もできまして、その辺とどんなふうに連動するかはまだはっきりはできていませんができるか

<委員>（倉門）

自転車も身近な交通手段で、コミバスを運行すれば、ある程度減るという想定をしている。しかし、まだまだ減ってはいますが、まだまだの状況である。

日暮里駅の放置自転車は足立の人が多かったが、日暮里舎人線ができれば減るかと思っただ、まだまだ減っていない。ただ、減少している。

今後放置自転車についてはあらたな対策をしていかなければならない。

もう一方で町屋駅の自転車駐輪場については、再開発ビルの下にあります。すでに満杯の状態である。ですから放置自転車をなくすには、新しい自転車駐輪場を作らなければならない。ただ、全般的に言えば、荒川区の放置自転車は減ってきていて、その一端はコミバスの影響であると思っている。

#### 4 その他

##### <事務局>

- ・ 今回頂いた課題については事務局で整理させていただき、調整させていただく。
- ・ 次回第5の地域公共交通会議は1月中に行う予定。文書にてお知らせする。
- ・ 会議の公開について、国土交通省の地域公共交通の設置及び運営に関するガイドラインにより公開することになっている。本日の会議の議事録は荒川区のホームページで公開する。

以上

## 第4回荒川区地域公共交通会議 出欠状況一覧

委員名簿				出欠
学識経験者	会長	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授	大森 宣暁	出
関係行政機関	国	国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官	遠藤 恭弘	欠
道路管理者	東京都	東京都建設局第六建設事務所管理課長	遠山 勝	欠
	荒川区	防災都市づくり部土木担当部長 土木管理課長事務取扱	斉藤 秀喜	出
		防災都市づくり部 道路課長	大木 浩	出
交通管理者	警視庁	警視庁交通部交通規制課課長代理	椎名 康雄	代理
		警視庁荒川警察署交通課長	山本 忠吉	出
		警視庁尾久警察署交通課長	渡辺 誠	出
		警視庁南千住警察署交通課長	寒河江 正	出
運送事業者団体	事業者	一般社団法人東京バス協会常務理事	二井田 春喜	欠
		社団法人東京乗用旅客自動車協会専務理事	藤崎 幸郎	出
東京都交通局自動車部計画課長		西川 善宣	代理	
京成バス(株)取締役営業部長		木下 良紀	出	
一般乗用旅客自動車運送事業者		社団法人東京乗用旅客自動車協会 荒川区内事業者代表 (大日本自動車交通株式会社代表取締役社長)	海田 正則	代理
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体		東京都交通運輸産業労働組合協議会 バス部会事務長 (東京交通労働組合自動車部長)	福田 智	出
区 民	町会	荒川区町会連合会会長	須藤 昌彦	出
	団体	NPO法人荒川区高年者クラブ連合会副理事長	長谷川 敏男	欠
		荒川やさしい街づくりの会代表	後藤 俊子	出
行政執行機関	荒川区	総務企画部長	北川 嘉昭	出
		区民生活部長	高梨 博和	出
		福祉部長	高岡 芳行	欠
		防災都市づくり部長	倉門 彰	出
事務局	荒川区	防災都市づくり部都市計画課長	松土 民雄	
		防災都市づくり部都市計画課施設計画担当係長	白井 巧	
		防災都市づくり部都市計画課施設計画担当	長野 博一	
		防災都市づくり部都市計画課施設計画担当	柳沢 泰隆	